

佐賀大学地域学歴史文化研究センター  
自己点検・評価報告書  
(平成24年度)

平成25年12月

## 1. 地域学歴史文化研究センターの目的・目標

### (1) 目的・目標

21世紀社会には、新たな学問体系が求められている。佐賀は19世紀後半、近代西欧文明・学問体系を受容した。それがどのような歴史文化を基盤としていたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題である。

佐賀大学が国立大学法人化を迎えるにあたり設定した理念・中期目標・中期計画のなかに、「社会が要請する研究分野を担当する文理融合型の研究センター設置を目指す」、「地域住民・市民と大学との地域連携研究を推進し、新たに『地域学』を創出する」とある。

本センターはこれを実現するために、平成18年4月に設立された。従って、本センターの目標は、以下の通りである。

- 1) 本学における文系基礎学の基盤整備を図り、充実・発展させること
- 2) 地域(佐賀)の歴史文化の固有性と普遍性を探究すること
- 3) 新たな学問体系としての地域学を創造すること
- 4) 本学の学問大系に新たな方向性(価値観・世界認識)を提示すること

この目標実現のため、以下の具体的な研究活動・事業を展開している。

### (2) 基本的研究活動・事業

- 1) 地域(佐賀)の歴史文化資料の調査・収集と研究
- 2) プロジェクト(研究)の設定・企画・運営
- 3) 諸データベースの作成
- 4) 「研究紀要」「史料集」「図録」の刊行(企画・編纂)を行い、広く学会等へ調査・研究成果を公表していくこと
- 5) 講演(会)・講座・シンポジウムの開催(企画・設定)
- 6) 地域文化交流協定等による博物館等の特別展示の企画立案、共催事業の展開等により、本学(学生・教職員)及び地域社会へ研究成果を提供すること
- 7) ホームページによるタイムリーかつ簡便な地域歴史情報を広く提供すること

## 2. 地域学歴史文化研究センターの概要

### (1) 設立経緯

佐賀大学では、平成16年(2004)より学長経費による文系基礎学研究プロジェクトを開始した。附属図書館所蔵小城鍋島文庫を調査・公開することと、平成15年2月に結ばれた佐賀大学と小城町(現小城市)との地域文化交流協定事業の支援として、平成16年8月に特別展「小城鍋島藩と島原の乱」を開催し、同図録を刊行した。平成17年には、特別展「小城鍋島家の近代」を開催し、同図録を刊行した。これらの歴史文化研究と地域貢献事業の発展上に、さらには前述の通り佐賀大学中期計画・目標を達成するために、地域学歴史文化研究センターが平成18年4月に設立された。

### (2) センターの概要

1) 本センターは、地域(佐賀)の歴史文化の固有性と本学文系基礎学研究の現状を踏まえて、考古学、国文・文献学、洋学・思想史、地域史・史料学の4研究部門に専任・併任教員を配置し、地域学創出に向けた研究をすすめている。

2) 各研究部門長は、部門のプロジェクトを運営し研究を推進する。

3) 研究拠点として、平成18年10月佐賀大学本庄キャンパスに竣工した菊楠シュライバー館を使用し、市民・学生向けの閲覧室・展示室を常備している。

4) 教職員構成は以下の通り(平成24年4月現在)

センター長・専任教授	1名	
専任准教授	1名	
併任教授	2名	
併任准教授	3名	
特命教授	12名	
教務補佐員	1名	
事務補佐員	1名	
非常勤博士研究員	1名	※経済学部にも所属し、センターで研究活動を実施

5) 部門別構成は以下の通り(平成25年4月現在)

考古学研究部門	重藤 輝行	併任准教授(部門長、文化教育学部)
国文・文献学研究部門	白石 良夫	併任教授(部門長、文化教育学部)
地域史・史料学研究部門	伊藤 昭弘	専任准教授(部門長)
	宮島 敦子	併任教授(文化教育学部)
	山本 長次	併任准教授(経済学部)
	鬼嶋 淳	併任准教授(文化教育学部)
洋学・思想史研究部門	青木 歳幸	専任教授(部門長)

6) 歴任教職員(肩書きは当時のもの)

○センター長

宮島 敬一(経済学部教授)	平成18年4月～19年2月
古賀 和文(副学長・理事)	平成19年3月～7月(センター長事務取扱)
高崎 洋三(医学部教授)	平成19年8月～22年3月
半田 駿(農学部教授)	平成22年4月～24年3月
青木 歳幸(センター専任教授)	平成24年4月～

○副センター長

飯塚 一幸(文化教育学部助教授)	平成18年4月～19年3月
青木 歳幸(センター専任教授)	平成19年4月～24年3月
伊藤 昭弘(センター専任准教授)	平成24年4月～
宮島 敦子(文化境域学部教授)	平成25年4月～

○部門長

考古学研究部門

佐田 茂(文化教育学部教授)	平成18年4月～20年3月
重藤 輝行(文化教育学部講師)	平成20年4月～

国文・文献学研究部門

井上 敏幸(文化教育学部教授)	平成18年4月～20年3月
生馬 寛信(文化教育学部教授)	平成20年4月～22年3月
白石 良夫(文化教育学部教授)	平成22年4月～

洋学・思想史研究部門

青木 歳幸	平成18年4月～
-------	----------

地域史・史料学研究部門

飯塚 一幸	平成18年4月～19年3月
伊藤 昭弘	平成19年4月～

○専任教員

教授 青木 歳幸	平成18年4月～
講師 伊藤 昭弘	平成18年4月～19年11月
准教授 伊藤 昭弘	平成19年12月～

○併任教員

佐田 茂	平成18年4月～20年3月
井上 敏幸	平成18年4月～20年3月
飯塚 一幸	平成18年4月～19年3月
石川 亮太	平成18年7月～24年3月
鬼嶋 淳	平成19年10月～
重藤 輝行	平成20年4月～

生馬 寛信	平成20年4月～22年3月
白石 良夫	平成21年4月～
山本 長次	平成24年4月～

○特任教員(平成21年4月より特命教員に改称)

井上 敏幸(佐賀大学名誉教授)	平成20年4月～
鈴木 一義(国立科学博物館理工学研究部主任研究官)	平成20年10月～
松田 清 (京都大学大学院人間環境学研究科教授)	平成20年10月～
村上 隆 (京都国立博物館保存修理指導室長)	平成20年10月～
長野 暹 (佐賀大学名誉教授)	平成21年4月～
生馬 寛信(佐賀大学名誉教授)	平成22年4月～
平井 昭司(前東京都市大学教授)	平成22年4月～
ミヒェル・ヴォルフガング(九州大学名誉教授)	平成22年4月～
高崎 洋三(佐賀大学名誉教授)	平成23年4月～
中村 政俊(佐賀大学名誉教授)	平成24年4月～
半田 駿(佐賀大学名誉教授)	平成24年4月～
宮島 敬一(佐賀大学名誉教授)	平成25年4月～

○非常勤博士研究員

野口 朋隆	平成23年5月～25年3月
伊香賀 隆	平成26年4月～

○教務補佐員

伊藤 彰子	平成18年4月～19年11月
亀井 森	平成19年11月～22年3月
大塚 俊司	平成20年5月～

○事務補佐員

古賀 亜紀	平成21年4月～24年7月
上祐 佐智子	平成24年8月～

### 3. 24年度の活動に関する自己評価

#### (1) 教育

- ア) 教養教育を所管する教養教育運営機構との連携をすすめた。具体的には専任教員による教養教育授業担当(2名が年2～3コマずつ)などである。
- イ) 上記のほか、大学コンソーシアム授業開講や、eラーニング、文化教育学部での地域学関連専門科目開講など、学内他部局と連携し教育活動を実施した。
- ウ) センター内に閲覧室を設け、歴史・文化・郷土史関係の書籍・資料を約2400点配置し、学生・市民の利用に供したほか、研究成果を展示室にて公開した。
- エ) 公開講座「佐賀学のススメ」を開講し、市民向けの地域学教育を図った。
- オ) 佐賀県立図書館との共催で市民向けの古文書講座を10回開催した。
- カ) 佐賀市との共催公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力」Ⅱ」を開催した。

#### 〈自己評価〉

本センターは研究を専門としているが、設立以来、研究成果の教育活動への活用を意図してきた。具体的には大学教養教育における地域学教育を構想し、上記の通り教養教育機構との連携を図った。

社会教育の面では、市民参加型の古文書講座や公開講座を自治体と共催などにより開催し、地域学の有効性や史料保存の重要性について、市民の理解が深まるよう努めた。

#### (2) 研究

- ア) 佐賀大学附属図書館所蔵「小城鍋島文庫」の幕末維新資料および中林梧竹関係資料に関する研究を進め、成果を小城市との共催展「幕末維新期の小城藩―書聖・中林梧竹の生きた時代―」を開催して市民に還元したほか、研究図録を刊行した。
- イ) 地域学歴史文化研究センターで収集した史料の研究・公開推進のため、『肥前鹿島福源寺小志』を刊行した。
- ウ) 地域学研究の基礎的情報を蓄積するため、深江家・山本家・福源寺の史料調査を実施した。
- エ) 学内プロジェクト「地域学創出のための医文理融合型研究」(略称地域学創出プロジェクト)は2年目を迎え、報告書を刊行した。
- オ) 前掲「地域学創出のための医文理融合型研究」の一環として地域学シンポジウムを開催し、地域学研究のあり方について議論した。
- カ) 研究成果をわかりやすく市民・学生に伝えるための「佐賀学ブックレット」事業を開始し、第1弾として野口朋隆著『佐賀藩鍋島家の本分家』を刊行した。
- キ) 所属教職員の研究成果をまとめた研究紀要第7号を刊行した。

ク) 青木歳幸教授は科研費基盤研究(C)「佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究」(研究代表者、平成24～26年度、24年度1,300千円)、同(B)「佐賀・出雲・盛岡南部の明治期における在来鉄産業技術の展開と地域社会変動の分析」(研究分担者、平成23～27年度、24年度100千円)を獲得した。伊藤昭弘准教授は基盤研究(C)「近世後期藩財政像の再構築」(研究代表者、平成24～26年度、24年度900千円)、同(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」(研究分担者、平成21～25年度、24年度70千円)を獲得した。

#### 〈自己評価〉

本年度もさまざまな分野で研究成果を挙げることができた。特に2年目の「佐賀学創出プロジェクト」においては、25年度に成果をまとめた研究論集を準備中である。また佐賀学ブックレットも全5冊の刊行を予定している。

### (3) 国際交流・地域貢献

- ア) 小城市教育委員会との共催展「幕末維新期の小城藩－書聖・中林梧竹の生きた時代－」を開催し、佐賀大学附属図書館『小城鍋島文庫』の研究のほか、センターにおける研究成果を市民に公開した。
- イ) 上記共催展に伴い講演会を2回開催した。
- ウ) 佐賀県との共催古文書講座を開催した。
- エ) 佐賀市との共催公開講座を開催した。
- オ) 「佐賀県歴史データベース」により山本家文書など佐賀県関係古文書のデータを公開した。
- カ) 公開講座「佐賀学のススメ」を6回企画・開催した。
- キ) みやき町の公開講座に協力し、センターより講師を派遣した。
- ク) ホームページを公開し、センター事業の紹介や研究成果の発表を行った。
- ケ) 産学官連携事業「地域の歴史文化調査研究協力事業」のもと、県内自治体や民間団体との歴史文化面における交流・協力を、当事業のもとですすめた。
- コ) 中国の研究者との国際シンポジウムを佐賀で開催した。

#### 〈自己評価〉

展示・講演会・公開講座の開催による研究成果の市民・地域社会への還元など、本年度も大きな成果をあげることができた。またこの国際交流についても、国際シンポジウムを佐賀で開催し、内外の研究者との交流を深めた。

### (4) 組織運営

- ア) 平成25年4月現在専任教員2名、併任教員5名、特命教員12名、教務補佐員1名、事務補佐員1名、非常勤博士研究員1名を配置し、センター長を中心とした円滑な組織運営・研究

活動に努めている。また、文化教育学部や教養教育機構、附属図書館等、他部局との連携も進めている。

イ) 各学部から選任された委員、附属図書館長・総合情報基盤センター長など本センターの業務に関わる部局の部局長など学長が必要と認めた委員、本センター長・副センター長・専任教員・部門長により構成する運営委員会(学部の教授会に相当)を4回開催し、センター運営に関わる事案の審議を行った。各年度の開催回数は以下の通り。

ウ) センター専任・併任教員による会議を2ヶ月に1度開催し、センターの運営について検討した。

エ) 所蔵図書・資料は増加による菊楠シュライバー館の狭隘化、および火災から貴重資料を守るため、理工学部3号館に研究室を借用し、書庫・作業・会議スペースとして活用している。しかし菊楠シュライバー館の狭隘化や火災対応の未整備は解決していない。

#### 〈自己評価〉

組織運営はこれまで同様円滑にすすめることができた。しかし設備の問題は今後も課題である。

#### 4. 事業一覧

個人の肩書はすべて当時のもの

##### A) 展示

###### ① 特別展

###### ○ 主催・共催

「幕末維新期の小城藩―書聖・中林梧竹の生きた時代―」(地域学歴史文化研究センター・小城市教育委員会共催、10月6日～11月11日、於 小城市立歴史資料館)

###### ② センター展示室(菊楠シュライバー館1F)におけるミニ展示

###### ○ 常設展

「写真にみる旧制佐賀高校」

###### ○ 特別展

「近世の医学と佐賀」

##### B) 講演会

○ 特別展「幕末維新期の小城藩―書聖・中林梧竹の生きた時代―」記念講演会(小城市教育委員会主催、地域学歴史文化研究センター協力、10月13日、27日、於 小城市立歴史資料館)

白石良夫(センター併任教授・文化教育学部)「梧竹掃苔記―最初の師山内香雪との交流―」

伊藤昭弘(センター准教授)「幕末維新期の小城藩」

##### C) シンポジウム

○ 第2回在来知歴史学国際シンポジウムin佐賀(在来知歴史学研究会ほか共催)

第Ⅰ部 在来地学術シンポジウム「在来知と現代―日中両国の科学技術と経済発展を在来知の視点から解明する―」(於 佐賀大学大学会館、10月25、26日)

###### 基調講演

長野 暹(佐賀大学名誉教授)「幕末佐賀藩の反射炉と在来知」

李 毅(中国社会科学院世界経済与政治研究所研究員・中心主任)「在来知と産業の持続的発展が可能な歴史的ルートの選択―日本の歴史的経験が中国産業の持続的発展にもたらす意義―」

学術報告21席

第Ⅱ部 産学官連携世界遺産学術シンポジウム「世界文化遺産と現代―中国と日本の世界遺産を考える―」(於 佐賀大学理工学部、二七日)

###### 講演

張 涛(精華大学自動制御学部副教授・副学部長)「考古学の情報化に関する調査研究」

成富直行(佐賀市都市デザイン課課長)「九州・山口の近代化産業遺産群と三重津海軍所跡」

○第3回地域史惣寄合・第5回地域学シンポジウム(地域史惣寄合呼び掛け人・地域学創出プロジェクト共催、於 教養教育一号館)

セッションⅠ「地域史料の保存と活用」(12月8日)

研究報告

宮島敬一(経済学部教授・初代センター長)「なぜ佐賀大学地域学歴史文化研究センターをつくったか」

片倉日龍男(佐賀県文書館をつくる会)「多久古文書の村から佐賀県公文書館へのあゆみ」

平田豊弘(天草市教育委員会)「天草アーカイブズの設定と現在」

長野 暹(経済学部名誉教授・センター特命教授)「佐賀の地域特性と地域史料保存」

パネルディスカッション「地域史料保存活用と住民・自治体・大学」

基調報告

奥村 弘(神戸大学人文学部教授)「現代社会における地域歴史資料保全と活用についての提言—これまでの大規模自然災害での歴史資料保全活動から考える—」

セッションⅡ「地域特性と地域史」(九日)

研究報告

羽田真也(関西学院大学図書館)「地域史研究とまちづくり運動—兵庫県加古川市別府町新野辺での実践から—」

白水 智(中央学院大学法学部准教授)「フィールドワークで甦る歴史学—長野・山梨の山村調査から」

前田結城(神戸大学人文学部地域連携センター研究員)「地域歴史文化に大学が関わるといこと—丹波市での経験をもとに—」

大園隆二郎(前佐賀県立図書館近世資料編纂室長)「図書館と地域文化—近世資料編纂が地域史研究に果たした役割」

特別講演

小谷汪之(東京都立大学名誉教授・日本学術会議連携会員)「土地制度史から地域社会論へ—インドそして日本」

セッションⅢ 円座「地域史の固有性と普遍性」

問題提起

塚田 孝(大阪市立大学文学部教授)「地域史の固有性と普遍性をめぐって」

青木歳幸(センター専任教授・センター長)「近世肥前佐賀の地域特性と普遍性—医学史の視点から」

吉田伸之(飯田市歴史研究所所長)「単位地域の分節的把握—長野県下伊那郡阿智村清

内路の場合」

#### D) 公開講座など

佐賀大学公開講座(センター企画)「佐賀学のススメ」(平成24年9月～25年2月、全6回、於 佐賀大学附属図書館ほか)

佐賀大学公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力Ⅱ」(佐賀市共催、平成24年5月～9月、全5回、於 佐賀大学附属図書館ほか)

古文書講座中級編(地域学歴史文化研究センター・佐賀県立図書館共催、平成24年5月～25年2月、全10回、於 佐賀県立図書館)

#### E) 調査

佐賀市・深江家文書(佐賀藩士、約500点)

伊万里市・山本家文書(酒造業、佐賀県県議など、約1万5千点)

鹿島市・福源寺(黄檗宗、典籍類、約500点)

#### F) 刊行物

伊藤昭弘(センター准教授)編『幕末維新期の小城藩－書聖・中林梧竹の生きた時代－』

井上敏幸(佐賀大学名誉教授・センター特命教授)・伊香賀隆(センター非常勤博士研究員)編『肥前鹿島福源寺小志』

『佐賀大学地域学歴史文化研究センター』第7号

地域学創出プロジェクト2012年度報告書

第3回地域史惣寄合／第5回地域学シンポジウム報告書『地域史の普遍性と固有性』

野口朋隆著『佐賀藩鍋島家の本分家』(佐賀学ブックレット第1集)

#### G) 研究プロジェクトなど

○佐賀大学学内研究プロジェクト

「地域学創出のための医文理融合型研究」(代表青木歳幸(センター専任教授)、学内教員21名が参加、平成23年度～25年度)

○産学官連携事業

「地域の歴史文化調査研究協力事業」(代表伊藤昭弘センター専任准教授、佐賀県・鹿島市・小城市などと連携)

#### H) 外部資金

○科学研究費補助金

青木歳幸 基盤研究(C)「佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究」(研究代表者、平成24～26年度、24年度1,300千円)

青木歳幸 基盤研究(B)「佐賀・出雲・盛岡南部の明治期における在来鉄産業技術の展開と地域社会変動の分析」(研究分担者、平成23～27年度、24年度100千円)

伊藤昭弘 基盤研究(C)「近世後期藩財政像の再構築」(研究代表者、平成24～26年度、24年度900千円)

伊藤昭弘 基盤研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」(研究分担者、平成21～25年度、24年度70千円)

## I) 教育関係

○授業担当(専任教員)

・青木 歳幸専任教授

◇教養教育

「地域の蘭学」

「江戸時代の医学と医療」

「医療科学史」

「佐賀学入門」

◇大学コンソーシアム

「佐賀の蘭学」

◇e・ラーニング

「チャレンジ佐賀学」

◇文化教育学部

「日蘭文化交流史論」

・伊藤 昭弘専任准教授

◇教養教育

「近世日本の社会と経済」

「近世日本の地域社会」

◇文化教育学部

「西日本地域史論」